

実質化された人・農地プラン

市町村名	対象地区名	集落名	大字	作成年月日	直近の更新年月日
岡山市	東区瀬戸地域	肩脊地区	肩脊	令和4年1月23日	-

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	57.5ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	43.4ha
③地区内における75才以上の農業者の耕作面積の合計	18.2ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	6.1ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	0.4ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	2.0ha
(備考)	

注1:③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。

注2:④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。

注3:アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。

注4:プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

担い手農家が次第に高齢化し、耕作者の数が激減していることが以前から懸念されている。アンケートの回答者のうち、75歳以上は36%、60歳から74歳は46%で、アンケート結果からも高齢化が明らかになった。アンケートで後継者なし・未定と回答のあった60歳以上の耕作面積は全体の34%を占め、後継者育成が急務である。

注:「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

農地中間管理機構事業を利用することにより、中心経営体を中心とした担い手農家への農地集積・集約化を図る。
地区内の分散・錯綜した農地についても、農地中間管理機構事業を利用することにより、農地集積・集約化を図る。
兼業者の定年等を機に耕作面積の拡大を働き掛けていく。

注1:中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。

注2:「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。